

うぐいすの森自治会活動報告（2024 年度）

■水道の長期的視点から見た老朽化対策についての説明会

日時：2024 年 6 月 30 日 13 時半～15 時 15 分

場所：自治会管理会館にて

説明：有限会社双葉工業代表取締役土屋泰氏

参加：うぐいすの森理事会及び会員（計 28 名参加）、管理事務所

説明会内容

1. まず 6 月 23 日に逝去された当自治会顧問弁護士であった故川崎直人弁護士の哀悼の意を表して皆で黙とうを捧げた。
2. 八杉会長より、水道施設の仕組み概要及び、配管敷設打ち替えについて、長期的視点から見た老朽化対策の策定の必要性について資料を基に説明があった。
3. 有限会社双葉工業は、佐久水道企業団からご紹介いただいた本管工事ができる業者であり、別荘地をいくつか担当しており、別荘地の水道事情については経験値が高い。従来は業者に見積もりをお願いすると、該当部分の修繕を提案してきただけであったが、土屋氏からはそのようなパッチワーク対応をしているうちに修理では済まなくなり、同時多発的に漏水が始まり、対応不可能になるので、今のうちに（今でも遅いくらいだが）、長期的計画を立てるようにとの進言を頂き、このような場を設けた。
4. 理事会では、水道施設の長期的老朽化対策の必要性については先延ばしできないことは承知していながら、予算の問題で手が付けられていなかった。しかし、昨年度小林組との委託業務契約を解除することにより、年間 450 万円の余剰金ができたと、顧問弁護士を解約することで 60 万円の余剰金ができたと、自主管理による業者との業務契約と支払いをした数カ月の経験から、小林組に依頼していた時と比べて、最低年間 200 万円程度の余剰金を生むことができるだろうという見通し、などから、少なくとも 700 万円程度の水道維持に関する支出が出来るものと思われる点について、会長から説明があった。
5. 土屋社長よりのアドバイスは次の通りである。
 - ◆直径 125 mm の SP 管はすでに生産されていないので、今後修理を行うためにスペアとして管と連結具などを購入しておかなければ修理できない。
 - ◆SP 管を少しずつ樹脂管にリプレースしていく必要がある。頻繁に修理してきたところなどを優先して配管打ち替えを行う必要がある。100 mm 管か 150 mm 管のどちらかを選択。
 - ◆今までの修理履歴は非常に貴重なデータであり、それを今後の世代のためにも残していかなければならない（我々はいつまでも生きていないが、水道施設は長期的に維持できるよう計画を立てるべき）
 - ◆家がないところは止水栓で切り取る必要がある（佐久水道企業局からも言われている）。従来理事会でも検討したが、一部の理事から止水栓で止めれば水圧が高くなり、漏水が増えるから同じであるとの意見があったが、これについては水圧は変わらない、とのことである。家が 1, 2 軒しかないところには、50 mm 管は止めて、13 mm 管を配管すれば水道供給は問題ない。消防施設の水道については要検討。
 - ◆あまり水の需要のないところは、125 mm の配管の中に 75 mm などの細い管を入れるのも一つ

の方法だが、後で漏水箇所を調査する時に、どこか分からないから修理が難しい。

◆配管打ち替え工事の場合、最低60cm中の工事が必要。場合によると120cm必要であり、う回路を準備する必要がある。

6. 質疑応答

植村さんからの質問・回答概要

◎配管の打ち替えでなく、SP管に電気反応を起こさないよう物質を塗布するなどの施工を行う。

→それをするくらいなら、配管打ち替えを行った方がコストが安いだろう。おまけにその施工がどのくらい持つのが明らかでない（そんな施工をする水道屋がない）

◎地中に埋め込まず、露出もしくは露出に近い状態で配管したら、修理が容易だろう。

→冬季に凍るだろう。

◎サーモスタットで凍結を防ぐ

→電気代が馬鹿にならないだろうし、逆に日中はお湯になり、蛇口をひねったらお湯が出るというクレームが出るだろう。

◎配管打ち替えを旧管と並行、もしくは上下に設置して新管リプレースするが、古いSP管をそのままにして万が一の時のためにおいて置いたらどうか。

→その必要性がない。そもそも使用に耐えないからリプレースするのであり、置いておいて、いつか使えるような可能性はない。

◎栢菅氏の質問に対して

→土屋氏は一度水道敷設図面を見ただけで、一般的な別荘地の長期対策を説明しているのであり、具体的な配管などの施工図については確認できていないのであり、質問に回答するには現場を歩く、図面を読み解く（図面通りでないことも多い）必要があり、回答は難しい。一番修理を行っている配管部分はどこか？と聞いても誰も答えられない現状であるので、質問には充分回答できない。一般的な長期計画の必要性を会員の皆に理解してもらうための会であり、具体的な施工についての質問に対する回答は今後の調査後の問題である。

<説明会後の提案>

土屋社長から、直近の佐久市の公営水道が通っているところから、公道を通過して、第一配水池まで水道が引ければ、そこにメーターを付けて、佐久水道局に水道料を払う、そうすれば配水管の打ち替え工事も必要なくなり、平井の井戸から第一配水池までの配管も、電気代も必要がなくなる。塩素などの水質管理も必要がなくなり、かなり費用が合理化されとの提案があった。

理事会として今後調査、検討、交渉する必要がある。

以上